



東地中海地域ニュース

サウジアラビア：第111回GCC外相会合の開催

(6月9日付現地各紙)

9日付現地ワタン紙およびリヤド紙は、第111回GCC外相会合(7日から8日、施リヤド)について報じている。概要は以下の通りである。

8日、アティーヤGCC事務局長は、第111回GCC外相会合後のユースフ・アラウィ・オマーン外相(議長)との共同記者会見の場で、最終声明を読み上げた。以下の通りである。

1. 総論

(1) オバマ米大統領の中東訪問

外相会合は、オバマ米大統領によるカイロでのイスラム世界に向けたスピーチは米国の今後の外交政策の新しい立場を明らかにするものとして、特にパレスチナ国民の困難に終止符を打つべく努力するものとして評価するとともに、この内容(パレスチナ問題の解決)を早急に実現するため今後数ヵ月内に具体的な努力が行われることを期待する。

(2) 外相会合は、最近の地域情勢(特にパレスチナ、イラク、イラン核問題)について検討を行い、また他の地域共同体(特にASEAN)とGCCとの対話や経済関係の進展について検討を行った。この観点で、バハレーンによるGCC・ASEAN外相会合開催への呼びかけを歓迎した。

2. GCC 諸国間の協力

GCC 諸国間の経済的統合と協力推進については、GCC 首脳の指示に基づき、関係国によりGCC 通貨同盟に関する協定への署名が行われた。

3. 外交

(1) アラブ和解

外相会合は、アブドゥラー・サウジ国王が提唱したアラブ和解の精神が具体的に実現される必要があることを強調した。

(2) GCC・イラン関係

外相会合はUAE3島問題については、イランから前向きな反応が示されていないことは遺憾であるとし、またイラン核問題については国際法・国連諸決議に基づき平和的に解決される必要があることを再確認し、西側諸国による努力を評価した。また外相

会合は、全ての国家は平和的目的のための核技術を保有する権利を有するとの立場を再確認した。

イランはその善隣外交、隣国の内政不干渉および紛争の平和的解決に対するコミットメントを言葉で示すだけでなく、具体的な現実の行為として示すべきであり、これにより GCC・イラン間の信頼関係が醸成され、地域の安定につながるものである。

(3) イラク

外相会合は、イラクの国土統一性、イラク内政への不干渉、アラブ・イスラムとしてのアイデンティティの保持、およびイラク国民和解による治安の回復の必要性について改めて再確認した。

クウェイト・イラク関係については、イラクは国連安保理関連決議を国連の枠組を通じて速やかに完遂すべきである。

(4) パレスチナ

外相会合は、オバマ米政権下でのパレスチナおよび中東和平交渉の今後について検討し、ネタニヤフ・イスラエル首相による入植地拡大や分離壁の建設等の和平に逆行する立場を非難し、オバマ大統領による 2 国家解決支持の姿勢を評価した。